

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284103

研究課題名(和文) ソ連軍接收関東軍文書に関する日露共同研究

研究課題名(英文) The Russo-Japanese joint research into the documents of the Kwantung Army captured by Soviet Red Army after WW2

研究代表者

加藤 聖文 (KATO, KIYOFUMI)

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：70353414

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究実施前から把握されていたロシア国防省中央公文書館(CAMO)が所蔵する関東軍文書のすべての画像データを入手し、目録を作成した。また、研究成果の一部として、ロシア側研究者らを招いて2017年2月24日に法政大学において国際会議「第二次世界大戦史研究(ソ連における外国人捕虜問題)」を開催し、60名以上の参加を得た。

しかし、今回収集した関東軍文書は1990年代のロシア混乱期に明らかになった文書と異同があることが明らかになった。今回収集した文書の公開に加え、これらの未確認文書の調査に関しては、ロシア側と交渉を行ったが、研究期間内に解決することができず、現在も協議が継続中である。

研究成果の概要(英文)：We had gathered all documents of the Kwantung Army captured by Soviet Red Army after WW2 in CAMO, and created a catalogue of these documents.

Moreover, it hosted an international conference, to which it invited 3 foreign researchers at Hosei university on February 24th 2017. In the conference, it was represented by over 60 researchers. However, the gathered documents this time were ascertained that partial different from it was announced in the 1990s. Concerning these unconfirmed piece of documents, it is currently being negotiated with CAMO.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 軍事 ロシア ソ連 国際関係 政治学 アーカイブズ 外交

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、若手研究(S)「海外引揚問題と戦後東アジア社会の国際変動に関する総合的研究」を2009年度より2013年度まで実施した。この研究ではこれまで未解明の部分が多かったソ連を正面から取り上げ、ロシア国内において大戦末期のソ連軍進攻と残留日本人の送還に関わる資料の収集を積極的に行ってきた。

ロシアの文書館は欧米の文書館と異なり、公開の手続きが煩雑であり閲覧制限なども多く短期的かつ効率的な資料収集は困難である。そうしたなかでロシア国立公文書館・ロシア外交政策公文書館・ロシア社会政治文書館での資料収集は一定の進展があり、なかでも外交政策公文書館が所蔵する北朝鮮からの日本人送還に関する外交文書を発見し、NHKスペシャル「知られざる脱出劇」(2013年8月12日放映)において取り上げられた。

このようにいくつか注目される成果を得ることができたが、満洲・朝鮮北部・南樺太からの日本人引揚に関してもっとも重要な役割を担っていたソ連軍そのものの文書は、国防省中央公文書館に所蔵されており、外国人の閲覧は極めて困難であった。

しかし、国防省中央公文書館は、ソ連崩壊直後の混乱期に外国人にも所蔵文書を公開したことがあったため、どのような文書が所蔵されているかは断片的に知られていた。なかでも、満洲に進攻した際、ソ連軍が押収した関東軍文書については、全国捕虜抑留者協会々長の斎藤六郎が1995年に刊行した『シベリアの挽歌』(終戦史料館出版部発行)において一部を紹介し、その存在を明らかにした。その後、稲葉千晴による史料紹介「関東軍総司令部の終焉と居留民・抑留者問題 - 日本側資料の再検討とソ連接收文書の分析によせて - 」(『軍事史学』第124号、1996年3月)が続いた。しかし、プーチン政権時代以降、ロシア社会が安定化するにしたがって、中央公文書館も資料公開が厳しくなり、とくに外国人が文書館に立ち入ることすら不可能となった。

研究代表者は、2011年秋に国防省(公文書館担当者)に対してロシア国民の申請手続きに従って公文書館利用を申請したところ、中央公文書館への入館許可が下りた。近年、防衛省防衛研究所が国防省と協定を結んで極東ソ連軍の一部文書を収集したことがあったが、個人の資格で許可が下りたのは2000年代に入って始めてのことであった。この許可に従い、2012年2月20日に中央公文書館を訪問し、その場でソ連軍の満洲進攻に関する文書の一部を閲覧した。その際、関東軍文書につき意見交換を行った結果、機密指定の解除手続きを経れば公開可能との回答を得た。

この後、1990年代に関東軍文書を閲覧したことがあったロシア人研究者(エリーナ・カタソノワ：ロシア科学アカデミー東洋学研

究所研究員)とのあいだで文書公開について打合せを重ねた結果、国防省中央公文書館との関係構築にも成功し、2013年度に機密指定解除のための作業(関東軍文書のリスト作成とロシア語への翻訳)を行い、指定解除の準備を完了した。

しかし、中央公文書館々長からは、将来、関東軍文書は教育省が構想している大祖国戦争資料館に移管される可能性があり、移管された場合、おそらく外部には完全に非公開になるとの発言があり、関東軍文書の早期公開を急ぐ必要があることが明らかになった。

このような作業と並行して応募者は、2012年度から日露歴史研究者会議(座長五百旗頭真)のメンバーとしてロシア側研究者とのあいだで歴史認識問題について議論を進めるなかで、大戦末期の日ソ戦に関する研究を進展させる必要性を痛感した。

以上のような経緯を通じて、日露両国の相互理解を深めるためには、歴史資料の共用化が絶対必要条件であって、その第一弾として関東軍文書を公開し、日露双方の研究者が自由にアクセスする体制を構築することで貢献が可能となると確信した。これが研究開始時の背景である。

## 2. 研究の目的

戦後70年という区切りを迎えるなかで、現在も克服されていない大戦末期の日ソ戦に関わる歴史資料の共用化を図り、21世紀の日露新時代のために具体的かつ社会的にも実効性のある成果を挙げることを目的とする。

具体的には、若手研究(S)「海外引揚問題と戦後東アジア社会の国際変動に関する総合的研究」(2009年度-2013年度)において所在を確認し利用許可を得たロシア国防省中央公文書館が所蔵するソ連軍が満洲進攻の際に押収した関東軍文書(約500点)のデジタル化をロシア側研究者と共同して行い、国防省が所蔵する関東軍文書の目録を作成し、最終年度に東京において成果報告を踏まえた国際シンポジウムを開催する。

## 3. 研究の方法

本計画は、研究代表者・研究分担者のほか、ロシア人研究者らを含めた研究協力者を加えたチームによって実施する。作業はまず第1に、国防省中央公文書館が所蔵する関東軍文書のデジタル撮影による画像データの収集を2年にわたって実施。次に収集した画像データを分析し、目録を作成するとともに歴史的に重要な内容を含む文書に関して一部の翻刻を行う。これらの作業は3年間実施する。

最終年度はロシア側研究者を招聘したシンポジウムを東京で開催し成果の一部を公表する。

## 4. 研究成果

研究当初に把握されていたロシア国防省中央公文書館が所蔵する関東軍文書のすべての画像データを入手し、目録を作成することができた。文書の大半は1945年8月の日ソ戦以降の文書であり、とくに関東軍総司令部から現地部隊への指令、およびソ連軍に対する武装解除と武器明け渡し関係が中心である。その他、居留民保護に関する文書も含まれる。また、日ソ戦以前の文書も少数ながら存在するが、これらは海軍の出先機関であった駐満海軍部から押収した文書であった。

また、研究成果の一部として、ロシア側研究者らを招いて2017年2月24日に法政大学において国際会議「第二次世界大戦史研究（ソ連における外国人捕虜問題）」を開催した。会議では、セルゲイ・キム（ロシア科学アカデミーロシア史研究所）「ロシア公文書史料にみるソ連における日本人捕虜」、シェルゾッド・ムミノフ（ケンブリッジ大学）“From Cold Camps to the Cold War: The Japanese Returnees from the Soviet Camps and the Superpower Confrontation over Japan, 1949-1956”、ウラジーミル・フセヴォロドフ（ロシア軍事科学アカデミー）「ソ連におけるドイツ人捕虜 1941年～1958年」の3本の報告を基に、来場者（約60名）との活発な議論が行われた。

以上の他、調査分析を通して得た成果は、学会発表7件（うち国際学会6件）・著書8件（うち単著2件）として発表、また研究期間終了後の2017年度中に研究発表3件（うち国際学会1件）、著書1件（共著）が公表される予定である。

以上のような成果に加え、今後は収集した関東軍文書を研究資源として一般公開する制度設計が必要であるが、今研究期間中で実現することができず、いくつかの課題も残された。その理由は以下の通りである。

今回、ロシア側が提供した関東軍文書データと1990年代に斎藤六郎によって公表された関東軍文書リスト（以下斎藤リストと略）と照合した結果、斎藤リストに掲載されているが今回撮影した画像データには無い文書、または今回撮影した画像データのうち斎藤リストには掲載されていない文書が確認され、現在国防省で把握されている関東軍文書は、完全なものではないことが明らかになった。斎藤リストとの異同については今後の詳細な検討が必要であるが、そのためには国防省内の書庫において関東軍文書の現物を確認しなければならないが、書庫への立ち入りは依然として禁じられている。また、収集した画像データの公表に関しては、現時点でロシア側の許可が下りていないという問題が残されている。

このような課題を克服するためには、ドイツがロシアとの間で進めているプロジェクト（モスクワ・ドイツ歴史研究所によるソ連軍押収独軍文書のデジタル公開）を参考にして、2015年度以降、日本側公的機関とロシア

国防省中央公文書館との関係構築を図った。しかし、日露外交レベルの問題となるため交渉は長期化しており、研究期間中の実現には至らず、現在も協議中である。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

加藤聖文, 満洲移民の歴史と個人情報 の壁 - 開拓団実態調査表をめぐる問題, 信濃 67 巻 11 号, 2015 年 11 月.

〔学会発表〕（計7件）

加藤聖文, 大戦末期における関東軍と満洲国軍 - 鉄石部隊の関外派兵, 「和解への道: 日中戦争の再検討」, 早稲田大学, 東京, 2016 年 12 月 23 日

加藤聖文, 国共内戦下の戦後日中提携 - 支那派遣軍と国民政府, 「中日戦争衝撃下の亞洲」學術研討會, 台湾中央研究院近代史研究所, 台北, 2015 年 12 月 19 日.

加藤聖文, 満洲国から中国東北へ - 「五族協和」と戦後日本, 東北大学東北アジア研究センター創設 20 周年記念企画国際シンポジウム「東北アジア: 地域研究の新たなパラダイム」, 東北大学東北アジア研究センター, 仙台, 2015 年 12 月 6 日.

加藤聖文, *The Soviet Entry into the Pacific War and the Establishment of a New Order in Northeast Asia: Japanese Repatriation in International Politics*, The International Committee for the History of the Second World War, International Congress of the Historical Sciences, Jinan, 2015 年 8 月 28 日.

加藤聖文, Comment “POWs in the Soviet Union: Comparison of Germans and Japanese” ICCEES, 神田外国語大学, 千葉, 2015 年 8 月 4 日.

加藤聖文, 満洲国崩壊と満蒙開拓団 - 「悲劇」をめぐる加害と被害, 「日本人引揚者の記憶のダイナミズムと植民地・帝国意識」, 高麗大学校亜細亜問題研究所, ソウル, 2014 年 11 月 21 日.

加藤聖文, *The Collapse of the Japanese Empire and the Transformation of the International Order in East Asia*, Breakdown of Japanese Empire, Cambridge University, Cambridge, 2014 年 9 月 21 日.

〔図書〕（計8件）

加藤聖文, 満蒙開拓団 - 虚妄の「日満一体」, 岩波書店, 2017 年.

加藤聖文, *The Dismantling of Japan's Empire in East Asia: Deimperialization, Postwar Legitimation and Imperial Afterlife*, Barak Kushner and Sherzod Muminov, Routledge, 2016 年.

麻田雅文, シベリア出兵 - 近代日本の忘れられた七年戦争, 中央公論新社, 2016年.

加藤聖文, 挑戦する満洲研究 - 地域・民族・時間, 加藤聖文・松重充浩・田畑光永編, 東方書店, 2015年.

加藤聖文, 日口関係史 - パラレル・ヒストリーの挑戦, 五百旗頭真・下斗米伸夫・A.V.トルクノフ・D.V.ストレリツォフ編, 東京大学出版会, 2015年.

加藤聖文, 戦後日本のアジア外交, 宮城大蔵編, ミネルヴァ書房, 2015年.

加藤聖文, 歴史学が問う 公文書の管理と情報公開: 特定秘密保護法下の課題, 安藤正人・久保亨・吉田裕編, 吉川弘文館, 2015年.

加藤聖文, 帝国支配の最前線: 植民地(地域のなかの軍隊 7), 坂本悠一編, 吉川弘文館, 2015年.

#### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

#### 〔その他〕

ホームページ等

<https://www.facebook.com/kiyofumi.kato.7>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

加藤 聖文 (KATO, Kiyofumi)  
国文学研究資料館・研究部・准教授  
研究者番号: 70353414

### (2) 研究分担者

黒澤 文貴 (KUROSAWA, Fumitaka)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号: 00277097

松田 利彦 (Matsuda, Toshihiko)  
国際日本文化研究センター・研究部・教授  
研究者番号: 50252408

麻田 雅文 (Asada, Masafumi)  
岩手大学人文社会科学部・准教授  
研究者番号: 30626205

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号:

### (4) 研究協力

エリーナ・カタソノワ (KATASONOVA, Elina)  
ロシア科学アカデミー東洋学研究所・所長

ワシリー・バルターノフ (VARTANOV, Vasili)  
財団法人クミール代表

セルゲイ・キム (KIM, Sergei)  
ロシア科学アカデミーロシア史研究所・研究員

シェルゾッド・ムミノフ (MUMINOV, Sherzod)  
ケンブリッジ大学・講師

ウラジーミル・フセヴォロドフ (VSEVOLODOV, Vladimir)  
ロシア軍事科学アカデミー・教授